

JA大阪北部は能勢栗(銀寄栗)のブランド化と品質の向上に取り組めます!

栗の施肥・剪定と害虫防除

施肥

元肥
2月下旬

●成木一本当たり、大阪北部工「有機3号」を4キロ施肥しましょう。

剪定の目的

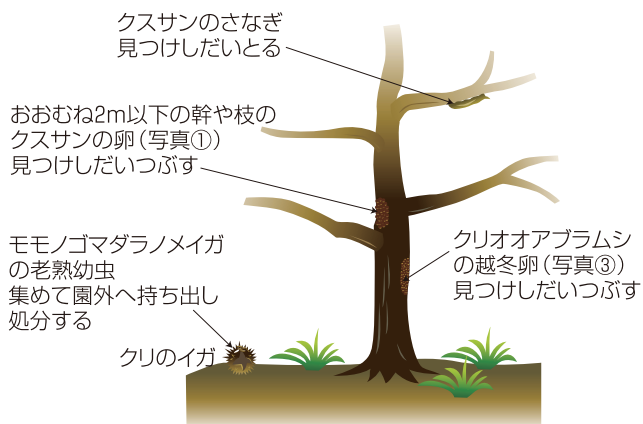
- 樹全体の日当たりを良くし、果実を大きくする。
- 樹の内部や樹間の風通しを良くして、病害虫の発生を抑え品質を高める。
- 収穫や栽培管理、農薬散布をしやすいうちに樹高を低くする。

剪定のポイント

- 樹高は3〜4メートル以内に抑えるようにします。
- 樹が大きくなると日陰になり枝が枯れこむ為、込み合っている太枝は間引き剪定します。
- 徒長枝や垂れた枝を間引き、長すぎる枝は途中で切り返す。
- 横に広がる枝を優先して残し、逆に内側に伸びる枝は切ります。

害虫防除

栗の害虫防除と聞くと、害虫の発生を確認してからの農薬散布を思い浮かべますが害虫の発生前【冬期】にこそ、対処しておく事が重要です。大量に発生し葉を食へつく「クスサン」や、集団で寄生して樹液を吸う「クリオオアブラムシ」などは、樹に産み付けられた卵塊を、金つち等で叩きつぶす、すりつぶすことで大発生を防ぐ効果があります。地味な作業ですが、剪定時等に合わせに行いましょう。



クスサンの薬剤散布での防除は4月上旬から5月中旬、若齢幼虫の間に行いましょう。幼虫(体長8mm)「写真②」を発見したら、葉ごとちぎりとか下記の薬剤散布を行いましょう。

| 病虫害名 | 作物名 | 農薬名 | 希釈倍数 | 使用時期/回数 |
|------|-----|------------|--------|---------------|
| ケムシ類 | 果樹類 | デルフィン顆粒水和剤 | 1,000倍 | 発生初期～収穫前日まで/- |

※クスサンは6月頃、体長7cm位まで成長すると防除する薬剤はありません。

写真③



クリオオアブラムシの越冬卵

写真②



クスサンの若齢幼虫(体長8ミリ)

写真①



クスサンの卵